超高精細画像システム

鈴木隆太* 越地正行* 川浦健央* 岩間保之**

加藤聖崇* 小倉康二**

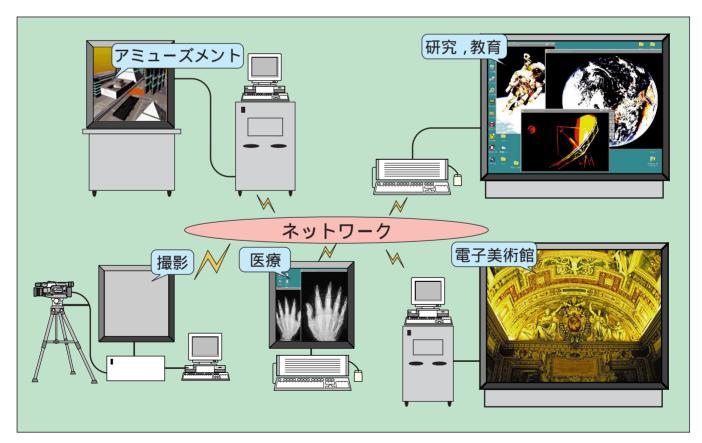
要旨

情報の伝達媒体として、画像は、その情報量の多さと人間の感覚系に対する親和性からますます重要性が高まっており、その中で特に画質については、画素の細密化(高解像度)及び色再現性の高度化が望まれている。

将来の画像メディアとして,超高精細画像が検討されている。超高精細画像は完全ディジタル方式の画像メディアであり,2k×2k以上の空間解像度,スクエアピクセル,60フレーム/秒以上の時間解像度,ノンインタレース,ち(緻)密な色再現といった特長を持っている。超高精細画像の情報量は,NTSCの約30倍,HDTVの約6倍に相当し,静止画の品質は35mmフィルムに相当する。これらの特長により,超高精細画像は,既存の画像メディアを統合する

ものとして研究が進められている。郵政省の諮問機関である電気通信審議会の諮問 21世紀を展望したディジタル映像技術の在り方について (平成5年)に対する答申においても,あらゆる映像メディアを統合するものとして超高精細画像の必要性が提言されている。

超高精細画像は,ディジタル映像技術の進展,B-ISDNを始めとしたネットワークの高度化・高帯域化に伴い,遠隔医療,遠隔印刷,教育,展示,電子美術館,CAD,産業応用,さらには次世代ディジタル放送など幅広い分野での応用が期待され,研究が進められている。三菱電機は,これら様々な分野に適用可能な超高精細画像システムの研究と開発を推進している。



超高精細画像システムの利用分野

医療,研究,教育,電子美術館,アミューズメント等の分野で超高精細画像システムの利用が検討されている。これらのシステムは,高速ネットワークで接続され利用される。